

2-P-5

神戸常盤大学 IR 用情報検索システムの構築

高松 邦彦
村上 勝彦、井本 しおん、上田 國寛

近年文部科学省は、高等教育機関への IR(機関研究)の導入を積極的に進めている。IR とは Institutional Research の略であり、「学内横断的に集めたデータを扱う取り組み」のことである。IR を行うためには、様々な情報を収集し、統一的に扱うために標準化し、分析する必要がある。これまで、学内横断的に情報を取り扱う部署は存在しなかった。そのため、本年度 IR 委員会が設置され、本学でも本格的に IR が稼働しつつある。

本研究では、学生による授業評価報告書の「改善策あるいは今後の授業への取り組みについて」のうち、「①本年度の改善目標②結果がどうであったか③来年度の改善目標」の部分を収集し、web 上で全文検索できる検索できるシステムの構築を目標とした。本研究では、プロトタイプとして医療検査学科のデータを用いて全文検索システムを構築した。これには様式の改訂や収集作業が伴うため、自己点検委員長（井本しおん先生）の協力を得た後、自己点検委員会と共同して行った。

学内 FD として教員が授業改善を行う際、本システムを使用すれば、本学教員達が行ってきた授業改善の前例を検索して参考にすることができる（現在公開準備中）。その結果、教員は学生に対してよりきめ細かい授業を行うことができるようになることが期待される。

さらに、今回は検索対象のファイル形式を多様にしたことで、多くの教職員が使用するほとんどの形式の電子情報を全文検索できるシステムを構築した。その結果、学内のデータを収集して本システムを利用すれば、学内の膨大な情報からでも、欲しい情報を簡単に得られるようになるため、IR の推進が期待される。

2-P-6

新任幼稚園教諭の職能形成をはかる研究者のかかわりについて

多田 琴子、後藤 晶子
上月 素子、光成 研一郎

保育者の職能形成については、アンケート調査による研究が多い。これでは無意識な側面を把握できない。そこで質的研究が求められている。しかし、代表的な質的研究の秋田（2010）・安見（2009）らのものにおいても、保育者にフィードバックしている研究とはいえない。職能形成のためには、研究結果は保育者に還元される必要がある。そこで、効果的なフィードバックのあり方も含めて検討すべく、本学附属幼稚園新任教諭の保育を参与観察しながら研究を進めた。期間は平成 25 年 4 月から 12 月で、一学期 9 回、二学期 5 回の計 14 回、1 回 30 分程度の保育実践を対象とした。

保育者意識について、保育実践をビデオにとり逐語録を起こして以下の手順によりその変容を把握した。①フィールドノーツの作成 ②保育者の「発語カテゴリー表」の作成 ③「発語カテゴリー表」への逐語のプロットと発語の数量化。こうして得られたカテゴリーごとの発語数の変化から保育者意識の変化を検討した。また逐語録や記録ビデオなどを提示しながら、新任保育者に対するフィードバックを適宜実施した。

保育者意識の変容における研究者のかかわり方の効果およびより効果的なかかわりのあり様を引き続き検討課題とする。